

明治史料館通信

1991. 1. 25 (季刊 年 4 回発行) Vol. 6 No. 4 通巻第24号



富士萬の蔵書
(羽田祥一氏所蔵)



富士 萬
(羽田祥一氏所蔵)

明治 2 年 12 月 1 日 東京にて 32 歳

ぬまづ近代史点描 ⑭
草莽の国学者

富士 萬

幕末維新时期には全国的に庶民の中からも国事に奔走する志士が輩出した。

沼津市域には駿東赤心隊を結成した神官たちを除きあまり顕著な事例はみられないが、ここに紹介する人物は、志士的心情を持った草莽の国学者である。

富士萬（清助・直孝・真人）は、伊豆国君沢郡三津村の豪商

羽田家に生まれた。祖父直臣・父直之

も竹村茂雄門下の歌人・国学者であり、自身も元治元年（一八六四）平田篤胤

の没後門人となり、平田鉄胤に師事した。篤胤の遺稿『古史伝』上木の資金

協力をした。赤報隊にも参加した志士三浦秀波と交際している。明治二

年（一八六九）には駿河国富士郡大宮郷（現富士宮市）の富士本宮浅間神社

別当宝幢院見晃（大神主富士神一郎）の養子となり、富士萬と改名、神官として神道の普及に尽くした。しかし晩

年は世に出ることなく、明治三十八年（一九〇五）六十七歳で没した。

〔参考文献〕『沼津の国学』、『沼津市博物館紀要』

シリーズ
沼津兵学校とその人材 ⑬
沼津兵学校と体育

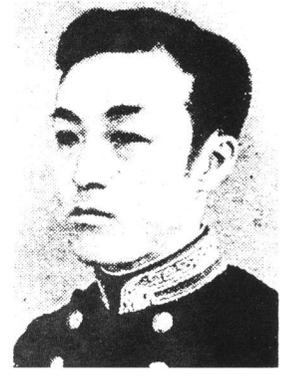


石橋好一訳『体操書』より



大鳥圭介訳・沼津学校刊『仏蘭西歩兵程式』より

『生兵号令』より



沼津兵学校三等教授 平岡芋作 (『歩兵第七連隊史』より)



沼津兵学校附属小学校体操世話方 羽山 蝶 (羽山安栄氏提供)

沼津兵学校および同附属小学校は、明治五年（一八七二）の明治政府による学制頒布以前において、体育（体操）を学科目の中に正規に位置づけた最初の学校であり、体育史上高く評価されている。

「徳川家兵学校附属小学校捷書」によれば、素読・手習・算術などと並んで体操・剣術・乗馬・水練が学科に置かれており、「体操は休日を除くの外日に一小時演習いたし身体の強壯を養ひ可申」と条文にも謳われていた。水練は毎夏土用中に実施し、剣術・乗馬は体操の間に行うとされていた。

「沼津御役人附」（明治二年）には、附属小学校の体操教授方として別所貫一・福島邦太郎（惟成）、体操教授方手伝として苅谷忠三（祐之）・岡島小太郎・柳田真八郎の名前が掲げられている。「静岡御

役人附」（明治三年）によると、小学校体操教授方として別所・福島、小学校体操世話方として苅谷・柳田・岡島・羽山勝次郎（蝶・宣孝）・瀧野耕一郎（貞豊）の名前がある。これにより附属小学校には五〜七名の体操専門教師がいたことがわかる。

一方、兵学校のほうは、体操ではなく「操練」が科目中に位置づけられていた。しかし、御役人附には掲載されていないが、石橋絢彦「沼津兵学校沿革」や大野虎雄『沼津兵学校と其人材』によると、兵学校のほうにも「体操教師」の体操方「がいたとされており、羽山・本多忠直（幸七郎）・山口知重（朴郎）・笠島重助・下逸郎らの名前があげられている。

彼らの詳しい経歴は不明であるが、以下わかる範囲で数名の人物

について紹介しておく。

別所貫一は、表坊主別所文益の子で、慶応二年（一八六六）撤兵組勅方を命じられ、三年肝煎、四年嚮導役に進んでいる。明治元年には三十歳だった。

福島惟成（邦太郎）は、撤兵勅方福島為之助の子で、慶応二年撤兵を命じられ、三年伝習御用、肝煎、四年歩兵嚮導役に進んでいる。明治元年には二十七歳。明治四年兵学校の兵部省移管に際し一等軍曹に任命された。

羽山蝶（勝次郎・宣孝）は、幕臣宮重丹後守帰元の四男に生まれ羽山半右衛門の養子になった人。江原素六とは妻同志が従姉妹の間柄であった。明治四年陸軍少尉となり、十年西南戦争で戦死した。

本多忠直（幸七郎）は、外国御用出役、別手組頭取、歩兵差図役頭取などを歴任し、慶応四年には二十八歳で歩兵頭であった。江戸開城に際しては伝習士官隊を卒いで脱走し、箱館五稜郭で降伏するまで官軍と抗戦を続けた。その後静岡藩に帰参し沼津に赴任したらしい。明治四年陸軍少尉。

山口知重（朴郎）は、やはり幕府陸軍の士官だったらしく、本多とともに伝習士官隊の頭取として脱走・転戦した。明治四年陸軍少尉となり、のち文官に転じた。

以上紹介した人物の経歴からもわかる通り、体操教師は幕末の段階で洋式訓練を体験した士官・下士官だった。剣術・乗馬・水練などは別にして、日本における体育（体操）の受容は、兵式体操（歩兵操練）の形で行われたのである。幕府陸軍はフランス式だった関係上、沼津兵学校の操練・体操もフランス陸軍系のそれであったと言われている。

しかし沼津兵学校における体育の実態を示す史料はほとんどない。以下、兵学校資養生石橋絢彦の回想を参考までに引用しておく。

●体操場及練兵場

午後二時頃課業終れば銘々玄関に置きたる鉄砲を荷ひ書物を含みたる風呂敷包を携へ練兵場に集るなり此所には平岡氏以下数名の教官銘々所持の生徒に教授す始めは木馬手摺などより竹飛び柵飛など種々あり柵飛ひは凶中練字の右方線

を以て劃せる所の惶に設けられたり柵飛芸の内、柵の上に仰向に臥し首を柵の外に出し足より上げて体を柵下に落すは馴れば容易なるも神経質の人は好まぬ伎なりし此外に首振りを始め手足の運動、駆足等種々あり

追々生徒も殖る教師の引足らぬ様になりて生徒中の優秀の者矢吹秀一、中川将行、吉田一郎、大岡恂など云ふ連中は生徒に体操を教ゆる事となりたり此連中の教へ方は他の教官よりも烈しく駆足などは中々長くやらされるため随分閉口したる人もありたり

これは附属小学校ではなく兵学校での様子らしいが、三等教授平岡芋作や生徒の優秀者も体操を教えていたことなどがわかる。

沼津兵学校の体育は、御貸人の派遣を通じて、福井・徳島などの他藩にも影響を与えた。

沼津兵学校廃止後、体操教師たちも他の教官たちと同様、上京し官途についた。羽山・本多のよう陸軍士官になった者のほか、福島惟成・荻谷祐之・瀧野貞豊らは明治五年に開成学校の体操教師に

招かれている。下逸郎は明治七八年頃工部大学の体操教師をつとめていたという。彼らは中央においても体育教師の草分けとして重宝がられたのであろう。

沼津兵学校三等教授石橋好一は、文部省に出仕し、明治七年（一八七四）にフランス人ベルギユの著書『体操書』を翻訳・出版した。この本は文部省の学校体育に対する指導書となった。

『参考文献』能勢修一『明治体育史』（一九八一年）、綿谷章『学制以前の体育―福井藩学校より―』（『金沢経済大学論集』第12巻第2号（一九七八年））、静岡県体育史編集委員会編『静岡県体育史』（一九七八年）、勝又瑛逸『沼津兵学校の体育』（『沼津兵学校の体育（2）』、『沼津工業高等専門学校研究報告』第20号・第21号（一九八五・八六年））、勝部真長他編『勝海舟全集 別巻2』（一九八二年）、小西四郎監修『江戸幕臣人名事典』第三巻・第四巻（一九九〇年）、石橋絢彦『沼津兵学校沿革（八）』、『同方会誌』48（一九一八年）など。

お知らせ欄

◎企画展「拓本でみる郷土の歴史と人物」の開催について

私たちの身のまわりには石碑が数多くあります。事件や事業の記念碑、人物の顕彰碑・墓碑、歌碑や句碑など、その種類は様々です。それらは郷土の歴史やそこに生きた人びとの営みが刻み込まれたものと言えます。今回の企画展では、沼津市内に残された歴史の意味をもつ石碑について、その拓本を展示・紹介します。

開期・平成2年12月20日(木)～3年

2月28日(木)

会場・4階展示室



企画展風景

◎小学校の社会科授業に当館の所蔵資料が活用されました

去る11月30日(金)、金岡小学校6年2組の児童の皆さんが社会科の学習の一環として「戦争中の生活」というテーマで実物資料を見ながら勉強するために来館しました。日露戦争や昭和戦時期の軍服・国民服、入営祝の幟、千人針、慰問袋、愛国婦人会のたすき、銃後奉公会の旗などを手にして子どもたちは目を輝かせていました。



戦時中より二健康提託嘱館の体験談を聞く

戦時中の資料を目の前にして



◎当館ゆかりの学校・会社の年史が刊行されました

当館の常設展示テーマである江原素六や沼津兵学校と関係の深い学校と会社において、百年史や九十年史が刊行されました。編集に際しては当館でも資料提供などの協力を行いました。

『東京製綱百年史』は平成元年4月に刊行されました。同社は、沼津兵学校教授渡部温・山田昌邦・赤松則良らが創立した会社で、兵学校の人脈と強い結び付きがありました。本書は、(財)日本経営史研究所主催の第七回「優秀会社史賞」を受賞しました。

『高女・西高九十年史』は平成2年11月に刊行されました。県立沼津西高等学校は、江原素六が顧問・設立者として設立・経営に尽くした私立駿東高等学校を前身としています。同書からは、江原の女子教育に対する進歩的な姿勢などが伺えます。

『静岡英和女学院百年史』は平成2年11月に刊行されました。同校は明治20年に静岡に設立されたミッション・スクールで、同じカ

ナダ・メソジスト派の信者であった江原素六も同校の評議員をつとめたほか、長女なつを入学させてもいます。

◎江原素六先生顕彰会が「緬羊牧場跡」の碑を建てました

去る11月、江原素六先生顕彰会の皆様により、明治六年頃移住士族が開設した緬羊の牧場の跡地に石碑が建てられました。場所は、かつてその周辺に百軒以上の旧幕臣土着士族が住んでいたという東沢田字笹見窪の畑の一角です。近くには第20号に写真を掲載したように土塁も残されており、往時の面影を偲ぶことができます。



沼津市明治史料館通信 第24号

編集 沼津市明治史料館
発行

〒410 沼津市西熊堂372-1

☎〇五五九(23)三三三五